

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和4年1月31日

事業所名 放課後等デイサービスぷらっとほうむ02

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			子ども達の状況に応じて利用できる部屋の確保や、心理室等の目的別の部屋を設置している	
	2	職員の配置数は適切である	○			子ども達の利用人数等に合わせて職員の増員行い、適宜、配置している	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○			建物の構造上、可能な範囲でのバリアフリー化に努めていきたい
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			日々のミーティングと月1回の支援会議を行い、業務改善に努めている	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			・保護者等からの意見や意向を真摯に受け止め、業務改善に努めている ・アンケート調査の結果は、ホームページ上で公開している	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○		必要と考え検討中である
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			・児童福祉機関より媒体資料を拝借し事業所研修を実施 ・外部講師を招き「子どもアドボカシー」についての研修を実施	コロナ禍ではあるが、質の向上を目的とした外部研修に積極的に参加できるようにしていきたい
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			保護者に依頼するフェイスシートを基に、独自のアセスメントシートを用いて客観的に評価を行った上で計画を策定している	昨年度より、最善の支援の在り方について検討を重ね、フェイスシートとアセスメントシートの改定を行った
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			独自のアセスメントシートと、支援の標準化を図る為の療育マニュアルを整備している	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			当日の利用人数、子どもの特性や興味等に配慮を行いながら、活動の立案を行っている	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			季節毎の行事や、子どもからの意見を取り入れる等して、活動内容の工夫を行っている	・子どもアドボカシーの一環として、個々の要望や達成したい事等の聴取を行い、個別支援計画にも反映できるようにしている ・活動企画書を作成しており、活動目標の明確化や評価等が出来るような仕組みを整えている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		全体共有の設定は行っているが、個々の状況に応じた柔軟な対応を重視している為、設定することが全てとは考えていない	課題設定については、子ども達の状況等によって変化していく為、見直しや改善に努めている
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			集団活動を行いながらも、少人数や個別等、分散しながら支援が出来るようにしている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			日々のミーティングにて支援内容や役割分担の確認を行っている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			支援終了後の活動内容の記録の際に、1日の支援の振り返りを行っている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			日々の活動記録による検証等は当然のことであるが、個別支援計画に則った支援内容や方法が、どのように行われているのか、また、その支援内容が最善であったか否か等、月毎に総括を行う仕組みを整備しており、支援の検証や改善等に繋げている	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			中間評価にて計画の見直しを適宜行っている	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○				
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			複数人で参加することを前提としているが、コロナ禍によりメール等で回答することが多く、多角的な意見が発信できるように努めた	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			必要に応じて情報共有やカンファレンスを行い、支援の連携を行っている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○			対象となる子どもの利用が無い為行っていないが、必要に応じて整えていきたい
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			幼稚園で保護者向けの講演会を実施する等、可能な限り情報共有と相互理解に努めている	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している			○		現在まで事例は無いが、情報提供できるように資料整備を行っている
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			児童福祉に精通している大学より定期的なSVが受けられるようにしている	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		コロナ禍の為、積極的な関りは難しいが、公園や図書館等の社会資源を活用し、交流が出来る様な工夫を行っている	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している			○		幅広い地域の方のご理解を得るためには必要と感じている
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時や連絡ノートの活用で共通理解が出来る様に努めている	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている			○		必須であると考えており、実施できるように体制の整備を検討中である
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約前に説明を行っている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			電話や面談だけでなく、公式LINEを活用しており、連絡が取れやすい環境を整えている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			コロナ禍の為、保護者会等の開催は1回のみであったが、SNS等で積極的に情報発信を行っている	保護者の方からの要望にもあったように、コロナ禍ではあるが、保護者の方がお子さんと一緒に参加できるような活動を企画していきたい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			苦情解決に関する規定を整備しており、規定に基づいて対応を行っている	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			ホームページやSNS等を通して情報発信を行っている	
	35	個人情報に十分注意している	○			管理規定に基づき、個人情報保護に努めている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			わかりやすい説明等を個別に検討し、柔軟な対応を行っている	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○		行事等への招待は行っていないが、近隣住民とは良好な関係を持つことが出来ている
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			各種マニュアルを整備し職員に対して周知徹底を行っている	保護者の方に対しては、契約等の際に策定している旨の説明を行っていたが、アンケートの結果から不十分が見られた為、周知等に努めたい
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			定期的な避難訓練を行っている	

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			研修や独自のケア基準の整備によって虐待防止に関する周知の徹底を行っている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			該当する子どもの利用が無い為、身体拘束等の必要性は無いが、必要に応じて整備を行う	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			保護者を通して情報把握に努めており、必要に応じて医師からの指示を仰ぐことにしている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ミーティングで情報収集を行い、3ヶ月毎に評価を行っている	